

令和4年度 事業報告書
(2022年度)

学校法人 箕面学園

I. 学園概要

1. 設立目的

天賦の才能を十分に伸ばさせるとともに、男女それぞれの特性を生かし、品性の高い教養ある人間を育成する。穏健な思想、円満な良、国家社会のよりよき一員をたらしめる。

2. 学園沿革

昭和21年	3月	財団法人箕面高等女学校設置認可 開校
昭和23年	4月	学制改革により箕面学園中学校、高等学校を開設 現在地に新校舎を竣工、移転
昭和24年	4月	箕面学園附属幼稚園を開設
昭和26年	3月	学校法人箕面学園に組織変更
昭和28年	4月	大阪学芸大学(現・大阪教育大学)の指導により 箕面学園幼稚園教員養成所開設(後・箕面学園福祉保育専門学校)
昭和31年	4月	箕面学園幼稚園教員養成所を同保育専門学校に改称
昭和38年	4月	鉄筋コンクリート造3階建南館、増築
昭和39年	3月	鉄筋コンクリート造4階建本館、増築
昭和40年	1月	体育館兼講堂等鉄筋コンクリート造地上3階地下1階
昭和50年	12月	保育専門学校 新校舎竣工
昭和51年	4月	附属幼稚園 新園舎竣工
昭和58年	3月	図書館(以文館) 新築竣工
昭和61年	3月	創立40周年記念 光風館新築竣工
平成4年	2月	高校セミナーハウス(湖西学舎)新築竣工
平成6年	6月	茨木グラウンド(茨木市泉原)竣工
平成9年	10月	創立50周年記念式典挙行
平成10年	4月	池田キャンパス開設(作業療法学科新設)
平成26年	10月	北館、南館、保育専門学校、幼稚園 耐震補強工事竣工
平成27年	10月	本館耐震補強工事及びトイレ等改修工事竣工
平成27年	11月	創立70周年式典並びに祝賀会を挙行
平成28年	8月	高等学校食堂リニューアル改修工事竣工 理事長室、学園事務室改修工事竣工
平成29年	8月	グラウンド人工芝化竣工
平成30年	10月	高等学校クラブハウス竣工
	10月	幼稚園増築棟、既存保育室リニューアル工事竣工
平成31年	4月	幼稚園型認定こども園箕面学園附属幼稚園 認可
令和元年	9月	東館一部改修(支援教室)
令和2年	10月	北館体育館改修工事竣工、空調新設

3. 役員の概要 (令和5年3月31日現在)

理事 6名 監事 2名 評議員 13名

4. 法人設置校及び施設

「箕面学園高等学校」 普通科総合選択制 箕面市箕面7丁目7-31

「箕面学園福祉保育専門学校」 保育科、介護福祉科、作業療法学科
箕面キャンパス 箕面市箕面7丁目7-31
池田キャンパス 池田市八王寺1丁目1-25

「幼稚園型認定こども園箕面学園附属幼稚園」
3年保育 箕面市箕面7丁目7-31

「箕面学園第二グラウンド」 茨木市泉原39-1

「箕面学園湖西学舎」 滋賀県大津市和邇中357

5. 経費

- (1) コロナ感染対策のため、非接触体温計、消毒液、マスク等の購入を強化し、備蓄用も購入したため保健衛生費が増額したが、一部国庫補助金により購入した。
- (2) 購入物品等は稟議書にて諮る事で経費の削減に努めた。

6. 施設整備事業

- (1) 箕面キャンパス内全館、茨木グラウンドの照明器具を大阪府の補助金により、LED化工事を行った。
- (2) 高等学校南館裏石垣フェンス等の改修工事を行った。
- (3) 高等学校北館空調更新工事を行った。
- (4) 幼稚園、専門学校北門雨水増水対応の改修工事を行った。

7. 学校評価への取り組み

幼稚園、高等学校で、PDCAに基づき学校評価、学校関係者評価を実施し公開する。

8. 法人業務の取組

令和4年度はコロナ感染症により、理事会を3回、評議員会を2回開催し、学園の情報共有や様々な課題について議論を行った。
また、私立学校法改正に伴い学校法人箕面学園の寄附行為変更も大阪府の指導のもと改訂した。

Ⅱ. 箕面学園高等学校

1. 令和4年度 募集人員

210名 普通科総合選択制

2. 令和4年度在籍数（令和4年5月1日現在）

1年 203名

2年 202名

3年 158名

合計 563名（男子465名、女子98名）

3. 生徒募集

(1) 渉外担当者による渉外活動（広報活動）を強化し、高等学校管理職とのミーティングを実施し情報共有に努めた。

(2) コロナ感染症対策を実施した上で、オープンキャンパス4回、入試説明会2回実施した。

(3) 入試を4回実施し、合計182名の入学者を確保した。

4. ICT化

各施設のICT化推進もあり、生徒のタブレット端末を使用した授業が可能になり、各教科で工夫をこらした授業展開が見られるようになった。また、今後、学校の休校や学級閉鎖となった場合にも対応ができるようになった。

5. 環境整備

(1) 消防法の適合に向けて順次改修工事を行った。

(2) 受動喫煙防止法改正により、学園敷地内の完全禁煙化に努めた。

(3) 危険箇所の点検、整備を行った。

6. 教職員研修

人権研修、ハラスメント研修、教職員の意識改革研修等を実施し、教職員間での情報共有を行い、教職員の意識、教育の質の向上に努めた。

7. 高大連携協定

大阪学院大学、短期大学 H24.5

芦屋大学 H26.3

大手前大学、短期大学 H26.3

8. 生徒の各推移

(1) 転退学率推移

年 度	期 首	離脱数	期 末	離脱率
R 1	4 5 1	2 5	4 2 6	4. 5%
R 2	5 0 3	2 0	4 8 3	4. 4%
R 3	5 5 8	2 3	5 3 5	4. 1%
R 4	5 6 3	2 3	5 3 4	4. 0%

(2) 令和4年度 進路状況 156名卒業

① 大学・短期大学 合格者 (抜粋)

皇學館大学	1名	上武大学	1名
追手門学院大学	4名	大阪学院大学	12名
大阪産業大学	13名	大阪国際大学	4名
大阪人間科学大学	2名	大阪商業大学	2名
大手前大学	13名	関西国際大学	5名
桃山学院大学	2名	岐阜協立大学	1名
甲子園大学	1名	大阪青山大学	1名
神戸国際大学	3名	神戸親和大学	7名
摂南大学	1名	福井工業大学	1名
大成学院大学	1名	宝塚医療大学	2名
帝塚山大学	1名	同朋大学	1名
名古屋商科大学	1名	芦屋大学	1名
大阪芸術大学短期大学部	2名	東大阪大学短期大学部	1名 他
産業技術短期大学	1名		

② 過年度生

関西学院大学	2名	同志社大学	1名
立命館大学	3名	阪南大学	1名
大阪産業大学	1名		

③ 専門学校

大阪行岡医療専門学校	1名	ECC コンピューター専門学校	2名
大阪医専	1名	大阪こども専門学校	1名
大阪動物専門学校	1名	大阪法律公務員専門学校	1名
箕面学園福祉保育専門学校他	47名		

④ 斡旋就職 (抜粋)

伊藤ハム、追分ファーム、ダイハツ工業、セコム、音羽
 きんでん、コカコーラ、神崎金属印刷、健栄製菓、間口運輸
 コウノイケ・エアポート、レッドバロン、中山製鋼所 他

Ⅲ. 箕面学園福祉保育専門学校

1. 専門学校組織改編

専門学校の組織を中長期的に見直し検討していく。

2. 募集活動

- (1) 渉外担当者による近隣の高校訪問等を重点的に行い学生募集の充実を図った。
- (2) 特別指定校を増やし、高等学校等との連携強化を図り入学者増へ繋げていった。
- (3) 高等学校等における単独開催の学校説明会や校外説明会など積極的に参加し、専門に特化した内容や学校の知名度を上げた。
- (4) 入試の回数を増やし学生の確保に努めた。

3. 広報活動

- (1) 募集定員確保のため、計画的な取り組みを検討し、早期からの企画を実施した。
- (2) 専門学校の特徴・生徒の頑張りを広く内外に発信した。
- (3) 学校組織の連携を密にし、情報の共有を図った。
- (4) HPやSNSを最大限活用
 - ① 社会人向け案内ページをボリームアップした。
 - ② 学校行事などの写真を多く載せ、他校との差別化を図る。
 - ③ SNSを活用し情報を発信する。
- (5) AO入試制度のシステム変更と継続
- (6) オープンキャンパスに加え、学校説明会を開催した。

4. 継続施策

- (1) 「清掃を中心とする環境整備」、「就学支援金」については、引き続き有効なものとして継続した。
- (2) 学校内奨学金の授与
卒業式で「学園長賞」、入学式で、在校生に「学園長賞」を授与した。

5. 文部科学省 中央教育審議会実施視察、および家庭認定校の申請に対する準備を引き続き下記の項目について整備を行う。

- (1) 全学的組織の確立と諸規定（カリキュラム委員会規程含む）の準備
- (2) 教育課程、履修方法およびシラバスの整備
- (3) 教育実習の実施計画、教育実習校の選択・連絡等
- (4) 施設・整備等の整備（図書の実、教員研究室、就職支援室の整備）
- (5) 就職指導の徹底
- (6) 指導大学（大阪教育大学）および教育委員会等との連携強化
- (7) 学校現場体験・支援ボランティア活動の強化（附属幼稚園との連携強化）

6. 作業療法士学校養成施設改善検討委員会
作業療法士学校養成施設改善検討委員会による養成施設における、総単位数、専任教員の要件、施設の備品等様々な見直しがあり、それらの対応を進めた。
7. 大阪府委託訓練事業
令和5年度は、保育科が認定され15名が在籍する予定となっている。

IV. 箕面学園附属幼稚園

1. 園児募集活動の展開
ホームページやクラスだより、園長メールや写真瓦版等で教育活動の「見える化」を工夫し発信。プレ幼稚園・かるがもでーの取り組み内容の充実と発信にも努めた。園選択の一助にと預かり保育の新2号の利用時間30分延長した。
2. 安全・安心の確保
コロナ禍、感染対策の徹底と保護者への周知・協力依頼にも努め、子ども達の安全と保護者の安心の確保、園機能の維持に心を砕いた。他には、ICタグ、防犯カメラ、ココセコムの導入等で、安全面の充実を図り広報にも努めた。また毎月の避難訓練や、日常の施設等の点検・保守を通じて、安全管理に努めた。
3. 研修の充実と実践的指導力の向上
教職員の資質こそ最大の教育環境の認識のもと、研修を大切にしてきた。しかし、コロナ禍で外部研修への参加が大幅に制限される中、オンライン研修の活用と恒例の研究保育も工夫して実施。そこで、子ども理解と実践的指導力向上に努めた。
4. 教育充実費にふさわしい開かれた幼稚園づくりと説明責任
園活動を充実させながら、園の考えも、園長メールやホームページ、や月1回の園便り、週1回のお知らせ・学級だより等での発信に努める。自己評価の情報公開も実施。また、高校、福祉保育専門学校、地域の小学校や関係機関との連携に努めた。
5. 円滑な園運営と子育て支援
箕面市等行政機関との連携に努め、業務の円滑な遂行に努める。
また、早朝7時半開始の預かり保育や、週1回の子育て相談や「かるがもでー」、キンダーカウンセラー事業等と併せて子育て支援の充実を図った。
6. 教職員のワーク・ライフ・バランス対応
教職員の処遇改善とワーク・ライフ・バランスのとれた働き方改革に努めた。また、そのことを通じて、新規採用の人材確保と育成、定着を務めたが課題は残る。